

オリジナル 木製スプーンを つくってみよう

京都造形芸術大学生が、
レクチャーや技術的なアドバイス
をおこないます！

京都造形芸術大学との共同プロジェクト

本ワークショップでは、工芸指導所が開発した成形合板
に直に触れてもらうことを目的としています。

ワークショップでは、木製飛行機の研究から生み出され
た成形合板の基礎知識について簡単なレクチャーをおこ
ないます。また、成形合板でつくった木製スプーンの型
をサンドペーパーで削り出し、参加者オリジナルの模様
をいれた木製スプーンを製作します。

開催日：

2018年
9/22
(土)

9/29
(土)

10/13
(土)

10/21
(日)

11/3
(土・祝)

11/18
(日)

時間：11:00～15:30 (15:00 受付終了)

随時受け付けます。

製作時間は15～20分程度です。

サンドペーパーとやすりを使用します。

※必要な道具はすべて当館でご用意いたします。

参加費：無料 (要特別展示観覧券)

場所：国立民族学博物館 特別展示館 2階

定員：各日80名 (先着順、材料がなくなり次第終了します。)

対象：子どもから大人まで (未就学児は保護者同伴)

ワークショップ開催日は、13:00より
日高真吾によるギャラリートークをおこないます。

講師：日高真吾

国立民族学博物館 人類基礎理論研究部 准教授。(財)元興寺文化財研究所研究員
を経て、2002年より現職。博士(文学)。

民俗文化財の保存修復方法、博物館における資料保存に関する研究をおこなうと
ともに、現在は、被災地における民俗文化財を活用した復興の可能性、地域文化
財としての民俗文化財の果たす役割について関心を持つ。

主な著書、編著書に、『女乗物—その発生経緯と装飾性』(東海大学出版会 2008
年)、『博物館への挑戦—何がどこまでできたのか』(三好企画 2008年 園田直
子と共編)、『記憶をつなぐ—津波災害と文化遺産』(千里文化財団 2012年)、
『災害と文化財—ある文化財科学者の視点から』(千里文化財団 2015年)がある。

工芸を語る

— 宮城の職人からのメッセージ

Telling about a Art and Craft: Messages from craftsmen of Miyagi



時間：13:30～15:00 (開場 13:00)

場所：本館第4セミナー室ほか

*参加券を12:30から本館1階案内所前にて配布します。
*メイン会場が満席の場合は中継会場をご案内します。

講師

日高 真吾 Hidaka Shingo

国立民族学博物館 人類基礎理論研究部
准教授

1971年生まれ。(財)元興寺文化財研究所研究員を経て、2002年より現職。博士(文学)。民俗文化財の保存修復方法、博物館における資料保存に関する研究をおこなうとともに、現在は、被災地における民俗文化財を活用した復興の可能性、地域文化財としての民俗文化財の果たす役割について関心を持つ。



講師

永山 雅大 Nagayama Motohiro

東北工業大学 ライフデザイン学部
クリエイティブデザイン学科 助教

1989年生まれ。東北工業大学ライフデザイン学専攻デザイン工学専攻 博士(後期)過程修了。プロダクトデザインを中心に、ものづくりとして宮城の工人、職人との商品開発をおこなっている。また、場づくりとしてイベント企画や運営等の活動もおこなっている。

宮城の工芸職人

加藤 恵 Kato Kei

あとりえ青輝鳥

1969年生まれ。2002年より紀州漆器の伝統工芸士数名に漆芸の基礎を学び、現在は仙台市にてアークセサリーを中心に制作している。伝統的な漆芸技法にこだわりながら、現代の暮らしの中で気軽に楽しめるデザインを大切にしている。

宮城の工芸職人

石橋 裕次郎 Ishibashi Yujiro

風花 KAZAHANA

1977年生まれ。2001年、武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。神奈川県と宮城県の木工所で家具職人として働いたのち、宮城県内に作業場を構えている。2014年から2017年、石巻市高等技術専門校木工科の講師を委嘱。2018年7月から「陸前高田市地域おこし協力隊」に赴任し、当地で自伐型林業の実践に取り組んでいる。

宮城の工芸職人

菅野 裕喜 Kanno Yuki

有限会社 長谷部漆工 塗師 兼 木工

1983年生まれ。石巻高等技術専門校木工科卒業後、2年間の大工経験を経て2006年長谷部漆工へ入社。仙台筆筒塗師・長谷部嘉勝に師事している。主に仙台筆筒の塗りを中心に、塗り技法の習得をおこなっている。2018年度、仙台筆筒塗師として伝統工芸士認定試験に挑んでいる。

関西の工芸職人

北村 繁 Kitamura Shigeru

漆芸家

1971年、昭斎の二男として生まれた。大阪芸術大学美術学部工芸学科金属工芸コースを卒業後、昭斎のもとで漆芸の道に進み、漆工文化財の修理に携わりながら、厚貝螺鈿や蒔絵などの漆工制作技術の習得につとめている。現在、伝統的な漆工芸技術の錬磨とともに、保存科学や他分野とも連携しながら修理、模造制作に取り組んでいる。

関西の工芸職人

藤原 千沙 Fujiwara Chisa

面打

1976年生まれ。嵯峨美術短期大学専攻科修了。日本画で古画の模写を学ぶ。卒業後は文化財修復の仕事に従事しながら作品制作を模索している中で、能に出会う。およそ700年前から今もなお生き続けている芸術の、時代を超えた普遍性とは何なのかを知りたいと思い、2004年に面打見市泰男氏に弟子入り、2016年独立。能面の制作・修復などに従事しつつ、新作能のプロジェクトに参加し、創作面の制作などを通じて、能の世界を探究中。

関西の工芸職人

宮永 絵里 Miyanaga Eri

株式会社 宮永社寺工芸 営業企画部担当

1972年大阪市生まれ。相愛大学人文学部英米文化学科卒業後、輸入雑貨店へ就職。4年後、家業の株式会社宮永社寺工芸へ入社。神社仏閣の営業活動と共に父親に溶接技術を教わりながら、雑貨、家具、インテリア、アート作品を製作している。2004年京展彫刻部門入選、2008年公募吹田市展彫塑部門入賞議長賞。



●開館時間…………… 10:00～17:00(入館は16:30まで) ●休館日…………… 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

●観覧料…………… 一般420円/高校・大学生250円/中学生以下無料
*観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

- 大阪モノレール…「万博記念公園駅」、「公園東口駅」徒歩約15分
- バス…………… 阪急茨木市駅・JR茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用出入口をお通ください。

*高校・大学生・一般の方は自然文化園(中央口、西口、北口)窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。*小・中学生が自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園(中央口、西口、北口)有人窓口で、みんぱくへ行くことをお申し出いただき、通行証をお受け取りください。*東口からは、自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。*自然文化園(有料区域)をご利用される場合は、同園入園料が必要です。

〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
企画課 博物館事業係
Tel: 06-6878-8210 Fax: 06-6878-8242
http://www.minpaku.ac.jp/

